

# NGO-労働組合国際協働フォーラム 2013 年度活動報告

(2013 年 9 月～2014 年 8 月)

はじめに

本フォーラムは、NGO と労働組合間の相互理解と協働事業を促進することにより、『国連ミレニアム開発目標 (MDGs)』に掲げられた、貧困、人権、平和、環境などの諸課題の解決に寄与することを目的として、2004 年 9 月に発足した。設立 10 年度目にあたる 2013 年度は、NGO16 団体 (うち参加 NGO1 団体) 及び労働組合 14 団体が参加して活動を行った。そのうち NGO7 団体、労働組合 9 団体により構成される「合同企画委員会」の運営のもとで、グループ活動とタスクチーム活動を継続した。

本活動報告では、「フォーラム全体の活動」「事業別タスクチーム活動」「課題別グループ活動」「事務局体制」「フォーラム会員団体一覧」について報告する。

## I. フォーラム全体の活動

### 1. 合同企画委員会

計 4 回 (10/17、2/7、4/16、8/27 開催) の合同企画委員会を開催し、本フォーラムの活動方針、活動計画、予算等についての協議と承認を行った。

### 2. 全体会の開催

参加 NGO も含む全メンバーを対象とした全体会を 2013 年 12 月 9 日に開催した。

### 3. 学習会

本年度の学習会は、前述の全体会の第二部として行なった。「グローバル化の中の企業と人権」をテーマに、寺中誠氏 (東京経済大学非常勤講師、アムネスティ・インターナショナル日本 前事務局長) より講演をいただき、その後事例発表として、岩附由香氏 ((特活) ACE 代表) より、「児童労働から考えるビジネスと人権」について、竹詰仁氏 (日本労働組合総連合会 総合国際局国際局長) より「多国籍企業の社会的責任と国際ルール」についての発表をいただき、学びを深めた。

### 4. 広報

#### 1. パンフレットリニューアル

本フォーラムパンフレットのリニューアルを行い、新たに 8,000 部発行した。

#### 2. メールマガジン発行

昨年度に引き続き、メールマガジンの発行を月 1 回行った。フォーラムとしての取組みを定期的に報告した他、フォーラムメンバーである各団体のイベントやキャンペーン情報の掲載など、情報発信の場として活用することができた。下記ホームページに、メールマガジンの登録フォームを設置している。2014 年 8 月末時点の登録者数は 250 名。

- ・連合：開発協力活動 (NGO との協働) のページ

<http://www.jtuc-rengo.or.jp/kokusai/kaihatsukyoryoku/index.html>

- ・JANIC：NGO-労働組合国際協働フォーラムのページ

<http://www.janic.org/activ/ngounderstand/unionforum/index.php>

## II. 事業別タスクチームの活動

### 1. 10周年記念シンポジウム開催タスクチーム

#### 1) 開催目標

- ・10周年の活動を振り返るとともに、多くの方に本フォーラムの活動を知ってもらう。
- ・シンポジウムに出席した NGO・労組関係者を、本フォーラムメンバーとしての参加につなげる。

#### 2) タスクチームについて

- ・メンバー：IUF-JCC／中田、シャプラニール／白幡、連合／大久保・本吉、JANIC／富野・井端・齋藤
- ・会合回数：6回（2013年11月下旬～2014年6月下旬）

#### 3) 活動実績

- ・シンポジウム名：『NGO-労働組合国際協働フォーラム 10周年記念シンポジウム  
「世界のために、NGOと労働組合ができること」ー児童労働、母子保健、HIV／エイズを中心にー』
- ・開催日時：2014年7月7日（月）シンポジウム 15：00～17：00／レセプション 17：30～19：30
- ・会場：ホテルラングウッド（2F 鳳凰）
- ・主催：NGO-労働組合国際協働フォーラム
- ・実績：来場者 127名（関係者含む）、NGO活動紹介デスク参加団体 8団体
- ・プログラム
  - ・開会挨拶 神津里季生氏（日本労働組合総連合会（連合） 事務局長）
  - ・『NGO - 労働組合国際協働フォーラム設立の想い』  
伊藤道雄氏（（特活）アジア・コミュニティ・センター21 代表理事）  
中嶋滋氏（国際労働組合総連合（ITUC） ミャンマー事務所長（ビデオレター））
  - ・基調講演『MDGs/ポスト 2015年開発枠組みと NGO - 労働組合国際協働フォーラムへの期待』  
近藤哲生氏（国連開発計画（UNDP） 駐日代表）
  - ・協働から生まれた成果と展望（各グループ活動報告）  
フォーラムの活動概要（事務局）  
児童労働グループ「児童労働の解決をめざして」  
母子保健グループ「世界の妊産婦と女性の命を守る」  
HIV/AIDS等感染症グループ「HIV／エイズは働く私たちみんなの問題」  
フォーラムの今後～NGOと労働組合の協働の未来～（事務局）
  - ・閉会挨拶 大橋正明氏（特定非営利活動法人 国際協力 NGO センター 理事長）
  - ・レセプション（立食形式）

※本フォーラムの歩みをまとめた10周年記念冊子を作成（1,000部）、シンポジウム配布資料および今後の本フォーラム広報に使用していく。

#### 4) 成果と課題

- ・127名を超える参加があり、多くの方に本フォーラム活動や、NGOと労働組合の連携の重要性の理解を広めることができた。またレセプションを開催したことで人的交流を促進させることができたと考える。
- ・アンケート回答者の9割以上が、「大変有意義だった」「有意義だった」と答えており、登壇者の選定、またプログラムに関しても充実した内容で実施ができたのではないかと考える。
- ・特にグループ活動報告について、演劇やインタビュー形式、詩の朗読など多彩なプログラムとなり、アンケートでの評価も高かった。一方で時間オーバーが課題となった。
- ・参加した数団体からは入会に高い関心を示してもらうことができ、次年度初旬の新規メンバー勧誘につなげることができた。

- ・ NGO 活動紹介デスクを設けることで、このフォーラムに参加している NGO 団体の活動について多くの方に知っていただくことができた。
- ・ 本フォーラムの歩みをまとめた 10 周年記念冊子は、内容もまとまっており、良い出来栄となった。



## 2. キャンペーン検討タスクチーム

### 1) 基本目標

関心のある組合員、一般市民が参加できるキャンペーンを支援することで、グローバル社会の課題をアピールすること。

### 2) 2013 年度の目標

- ・ 積極的に支援するキャンペーン（以下キャンペーン）についての審査、合同企画委員会への提案を滞りなく行う。
- ・ 承認されたキャンペーンについては積極的にフォーラムメンバーの参加を促し、推進に努める。

### 3) 活動実績

積極的に取り組むキャンペーンとして、下記 2 件の申請の一時審査を行い、合同企画委員会に提案し、承認された。

- ・ STAND UP TAKE ACTION (スタンド・アップ テイク・アクション) (動く→動かす)
- ・ ストップ！児童労働 キャンペーン 2014

### 4) 成果と課題

- ・ 上記のキャンペーンの審査をすみやかに行い、承認を得ることができた。
- ・ 本タスクチームの、発足した 2008 年度からこれまでの活動実績を振り返り、今後の役割の見直しを行い、2014 年度からはこの機能を事務局が担い、タスクチームとしては本年度で活動を終了することを合同企画委員会へ提案し、承諾を得た。

### Ⅲ. 課題別グループ活動

#### 1. 児童労働グループ

##### 1) グループの基本目標

児童労働は働く私たちがまず考えなければならない問題ということから、労働組合と NGO が協力することにより、問題解決に向かうことを基本目標とする。今年度は特に、労働組合と NGO の連携を基に、ネットワークの強みを最大限に活かした活動を行う。

また児童労働についてのもうひとつのネットワークである児童労働ネットワーク(CL-Net)とも協力体制で臨んでいく。

##### 2) 2013 年度の目標

昨年度は CL-Net との協働でキャンペーン・フライヤー「ひとはたあげよう」の制作に協力、また UA ゼンセン傘下のイオントップバリュ株式会社の協力を得てフライヤー配布を行い、児童労働やキャンペーンの広報活動に協力することができた。NGO と労組がそれぞれの持ち味を生かしての活動であったと思う。

この連携を活かし、2013 年度は CL-Net との協力体制を維持するだけでなく、主に労働組合(首都圏、地方組織)での周知活動を行う。既に労働組合の大会にあわせた派遣は行っているが、それだけにとどまらず講師を派遣し児童労働の周知を図る活動を労働組合と協働で実施していきたい。

##### 3) 活動実績

###### ① 組織運営

###### a. 参加組織

労働組合 6 組織(NTT 労働組合中央本部、IUF-JCC、自動車総連、JAM、日教組、UA ゼンセン)、NGO 4 組織(アムネスティ・インターナショナル日本、ACE、国際労働財団、FTCJ)の合計 10 組織で活動を展開した。

###### b. 事務局体制

2013 年度は ACE が事務局を務めた。

###### c. グループ会議

以下の日程で、5 回開催した。

2014 年 1 月 10 日、2 月 25 日、4 月 15 日、6 月 17 日、8 月 1 日

###### ② 活動報告

###### a. イベント主催・出展

###### ・ 第 85 回メーデー中央大会(4 月)

メーデー中央大会に出展し、写真パネルを活用した児童労働クイズと缶バッジ作り、「ストップ！児童労働キャンペーン 2014」の署名活動とレッドカードアクションを行った。

クイズは、様々な児童労働の写真と関連のある産品を選ぶ形式で実施。全問正解者には ACE の「てんとう虫チョコ」をプレゼントし、全問正解するまで答えを考えてもらうよう促した。クイズには 77 名が参加した。

###### ・ 連合「3.8 国際女性デー中央集会」啓発カフェ(3 月 6 日)

国際女性デー中央集会所会場で啓発カフェを母子保健グループとの共催で実施した(児童労働グループとしては初参加)。パネル展示、映像投影、各団体のパンフレットと講師派遣ちらしの配布と児童労働についての説明を行った。映像は、2011 年に作成した児童労働 DVD を再編集して活用した。85 名が来場。

- ・ 労働組合定期大会  
 UA ゼンセン定期大会(2013年9月18日-19日/ACE)、JAM 定期大会(2014年8月28日/アムネスティ、ACE)に出展し、児童労働についての説明やフォーラムの活動紹介、映像ツールの広報を行った。
- b. 映像ツール(児童労働 DVD)の普及と講師派遣  
 労働組合定期大会、国際女性デーでの啓発カフェ、フォーラム 10 周年シンポジウムなどのイベントで、児童労働 DVD を投影し、活用を呼びかけた。講師派遣については、ちらしを作成し、国際女性デーでの啓発カフェやフォーラム 10 周年シンポジウムなどで配布した。
- c. CL-Net と共同事業  
 「ストップ！児童労働キャンペーン 2014」の広報協力を行った。広報物としては、キャンペーン・フライヤー(20,000 部)、ポスター(500 部)、レッドカード型コースター(5,000 部)が制作され、キャンペーンの周知とアクションへの参加呼びかけに活用された。  
 キャンペーンの一環で行われた署名活動とレッドカードアクションには、児童労働グループ参加労働組合などから多くの参加があり、キャンペーンの広がりにも協力することができた。署名活動については、連合の中央執行委員会の「確認事項」として確認されたことが、新たな労働組合の参加にもつながった。

**【キャンペーンの実績】**

- ・ レッドカードアクション: 写真 714 枚、参加人数 9,210 人
- ・ 署名: 筆数 44 万 8,635 筆(累計 123 万 2,557 筆)



#### 4) 成果と課題

児童労働グループ参加の労働組合の協力や、他の課題別グループとの連携の中で、児童労働を知らせる機会を増やすことができた。

一方で、より効果的に児童労働の問題を伝え、アクションを促すことのできる写真パネル等の展示ツールの整備の必要性を感じた。展示ツールのリニューアルについては、2014年度に取り組んでいく。

- ・ 「ストップ！児童労働キャンペーン 2014」に、労働組合とNGOの連携という本フォーラムの強みを生かした形での協力をし、成果に大きく貢献することができた。
- ・ 講師派遣は活動に挙げていたものの、実際の依頼を受けるには至らなかった。ひきつづき、新たに作成する展示ツールともあわせて周知するほか、対象を一般市民にも広げ、依頼に応じて対応していく。

## 2. HIV/エイズ等感染症グループ

### 1) 基本目標

労働組合員や一般市民に対して、国内外のHIV/エイズ等感染症の現状と正しい知識を伝え、予防と、職場内の差別や偏見の解消を図り、国際的な取り組みを行う労働組合ネットワークやNGOを紹介し、その活動への支援参画を促す。

### 2) 2013年度の目標

- ① HIV/エイズに関する問題や課題について、一般市民・労働者への普及と啓発に貢献する。
- ② グループ参加団体がHIV/エイズやその他感染症に取り組む関係組織との協力関係を強化する。
- ③ 2009年度に作成したプログラムメニューを使用したワークショップ実施や勉強会を積極的に実施していく。

### 3) 活動実績

#### ①組織運営

##### a. 参加組織

労働組合2組織（インダストリアル・JAF、IUF-JCC）、NGO 4組織（AAR Japan [難民を助ける会]、AJF、シェア、PLAS）の合計6組織で活動を展開した。

##### b. 事務局体制

グループ事務局は毎年持ち回りで担っており、2013年度はAARが担当した。また、イベント毎に主担当団体を決め、活動を実施した。

##### c. グループ会議

グループ会議は以下の日程で7回開催した。

2013年10月1日、10月15日、11月26日、2014年1月16日、3月27日、6月10日、8月8日

#### ②活動

##### a. HIV/AIDS予防啓発イベントへの参加、実行

<世界エイズデーシンポジウム 「アジア太平洋地域のHIV最新事情」～性産業労働者の状況と課題／日本の具体的取り組み～>

- ・ 実施日：2013年12月17日15:00～17:00

- ・場所：総評会館連合A会議室
- ・参加者：約40名（事務局含む）
- ・内容：
  - 講演1：樽井正義氏：慶應義塾大学名誉教授／特定非営利活動法人エイズ・アンド・ソサエティ 研究会議副代表「アジアのHIVの現状(ICAAP)2013の報告と考察」
  - 講演2：水嶋かおりん氏：SWASH (Sex Work and Sexual Health) 次期代表「アジア太平洋地域のセックスワーカーのHIVに関する状況と課題、日本の具体的な取り組み」
  - パネルディスカッション：樽井氏、水嶋氏、モデレーター 当グループメンバー

樽井氏、水嶋氏ともにICAAP2013に参加されている。樽井氏からは、アジア太平洋地域でのHIVの状況について解説があった。水嶋氏からは、日本で行っているセックスワーカーに対するHIV／エイズに関する啓発活動の紹介や、現場でセックスワーカーが直面している問題などについて紹介があった。参加者からはアジア各国の状況がよくわかった、セックスワーカーについて保健の視点から考える機会となった、などの感想が寄せられた。

#### <メーデー中央大会（4月）>

- ・実施日：2014年4月26日
- ・場所：代々木公園
- ・来場者：約150人
- ・内容：エイズについてのクイズ、レッドリボンモニュメント作成（来場者参加型）、ポップコーン販売、コンドームをセットしたポケット・ティッシュの配布

ブースへの来場者を増やすため、足を止めるきっかけとする狙いで物販（ポップコーンの製造・販売）を行った。来場者にはエイズ問題についてのクイズや、レッドリボンについての説明などを行った。ポップコーンの袋にはグループの活動やレッドリボンの趣旨を説明したラベルを貼り、啓発に努めた。



#### 4) 成果と課題

グループの年度目標ごとの成果と課題は以下のとおりである。

目標①に対して：シンポジウムでは、日本国内の問題でありながら知られていない、セックスワーカーの直面している問題について、一般市民・労働組合員の方に知っていただくことができた。メーデーでも、エイズ問題に取り組むグループだから、ということだけでなく物販をきっかけに足を止める人に対して、HIV／エイズの問題を伝える機会となった。

目標②に対して：2013年12月17日開催のシンポジウムで外部講師を招き、グループ外の関係組織

と連携することができた。また同シンポジウムへの参加のきっかけが、講師への関心である参加者もあり、グループメンバーのみでのイベントでは参加してもらえない層にアクセスすることができ、新たな関係を築くことができた。

目標③に対して：グループメンバーのシェアに対して、労働組合からエイズに関するワークショップの依頼があり、実施した。グループ自体への相談ではなかったが、グループ活動の中で築かれた関係から実現した依頼であり、NGOと労組が連携することができた。

### 3. 母子保健グループ

#### 1) グループの基本目標

- ①労働組合とNGOが協力し、国際的な母子保健の課題について継続的かつ分かりやすい啓発活動を行い、組合員や一般市民に課題意識を高めてもらう。
- ②妊産婦保健と乳幼児保健の実質的な改善につながる様、実現可能なアクションの参画を拡大化させる。

#### 2) 2013 年度目標

1990年代にさまざまな国際会議で定められた開発目標と2000年9月に開催された国連ミレニアム・サミットにおいて、21世紀の国際社会の目標として採択された「国連ミレニアム宣言」とをまとめたものとして「国連ミレニアム開発目標 (Millennium Development Goals : MDGs)」ができました。

MDGsは国際社会の支援を必要とする課題に対し、2015年までに達成すべき目標などを掲げています。2010年にミレニアム開発目標首脳会合においてMDGsの進捗状況を検討した結果、貧困人口の減少や就学率の向上などはみられたものの、母子保健分野では依然遅れが目立っていることが分かりました。この結果を踏まえ、国連事務総長と各国首脳は、民間企業や国際機関、財団などとともに女性と子どもの健康増進にむけての取り組みを行うことを宣言しています。

私たち母子保健グループでも、より多くの市民、組合員に本問題に対する関心を深め、解決にむけての取り組みに参画してもらうことを目標とし以下の活動を進めていくこととします。

- ・ 途上国における妊産婦保健の現状や課題について、多くの市民、労働組合員に発信していく。
- ・ 上記のための具体的な方法として、各種会議やイベント等に併せて、参加型の学習会やセミナーの実施、ブース出店、パンフレット配布などの啓発活動を実施し、更に実現可能なアクションに繋がるよう取り組む。
- ・ 連合構成組織内の認識を拡げるため、パンフレット、機関紙、ホームページなどを活用する。
- ・ 他のNGOや労働組合に、グループ活動への参画を呼びかけ、活動拡大を図る。

#### 3) 活動報告

##### ①グループ会議開催

- 9/26 (水) 17時～ 新年度に向けて @基幹労連
- 2/18 (月) 9時30分～11時30分 連合「国際女性デー中央集会」に向けて @電機連合
- 2/25 (火) 14時30分～16時30分 「国際女性デー中央集会」 レストラン会場下見・打合
- 6/13 (金) 14時～16時 「10周年について」 @市ヶ谷DNPカフェ
- 6/19 (木) 10時～12時 「10周年について」 @電機連合
- 6/30 (月) 10時～12時 「10周年について」 @電機連合



8/4 (月) 13時30分～15時30分 活動報告・新年度予算、計画について @ジョイセフ  
 ※その他個別打合せ、及びメールにて調整あり

② イベント参加活動

参画している労働組合の各種機関会議やイベントなどを利用した、ブース出店、パンフレット配布、パネル展示などの実施

- ・9/4 (水) 「マルチセクターで取り組みポスト MDGs の課題」 シンポジウム  
 ブース出展と母子保健グループ発表 (ジョイセフ勝部まゆみ)
- ・9/5 (木) 基幹労連定期大会 母子保健グループリーフレット配布
- ・10/25 (金) 連合「中央女性集会」 展示とパンフレット配布
- ・1/27 (月)・28 (火) 電機連合中央委員会  
 展示とパンフレット配布、コーヒー試飲、チャリティアイテム頒布



- ・3/6 (金) 連合「国際女性デー中央集会」 展示とパンフレット配布、レストラン開設
- ・4/26 (土) 連合中央メーデー 展示とパンフレット配布、物品頒布
- ・7/7 (月) NGO-労働組合国際協働フォーラム 10周年記念イベント  
 活動発表、展示、パンフレット配布、物品頒布  
 活動発表では、母子保健グループとして、分りやすく、具体的なアクションにつながる  
 広報活動を行っていることを、妊娠シミュレーターやブルカ (民族衣装) などを利用し発表。  
 妊娠シミュレーターについては発表終了後も、関心を寄せる方がいました。(写真下)
- ・7/10 (木) 電機連合 定期大会  
 展示とパンフレット配布、コーヒー試飲、チャリティアイテム頒布



③ 外部イベントでの展示広報活動

- ・4月～5月の2ヶ月間 「ホワイトリボン運動の展示」@文京総合体育館ロビー  
展示と頒布を通じてホワイトリボン運動の紹介。取り組みのひとつとして、NGO-労働組合同際協働フォーラムの活動紹介。リーフレット設置。



④ 労組機関誌やウェブなどを活用した途上国の母子保健関連情報の積極発信

電機連合機関紙誌において MDGs や NGO-労働組合同際協働フォーラムの活動について掲載等。

### Ⅲ. 事務局体制

本フォーラムは、その事業遂行にあたり、労働組合側事務局として日本労働組合総連合会（連合）、NGO側事務局として（特活）国際協力NGOセンター（JANIC）が共同で事務局を担った。

### Ⅳ. フォーラム会員団体一覧（2014年8月31日現在）

次頁は、フォーラムの会員団体一覧である。企画委員の担当団体、及び各グループ活動への参加団体に○印をつけた（次頁）。

■ 労組側							
NO	企画委員	組織名	児童労働グループ	HIV/AIDS等感染症グループ	母子保健グループ	キャンペーン検討タスク	10周年記念事業タスク
1		インダストリアルオール日本化学エネルギー労働組合協議会(インダストリアルオール・JAF)		○			
2		NTT労働組合	○				
3	○	基幹労連			○		
4		国際建設林業労働組合連盟 BWI日本加盟組合協議会(JAC)	○	○			
5	○	国際食品労連日本加盟労組連絡協議会(IUF-JCC)	○	○			○
6	○	国公連合			○	○	
7	○	JR総連				○	
8		自治労					
9	○	自動車総連	○				
10	○	JAM	○				
11	○	電機連合			○		
12		日本教職員組合(日教組)	○				
13	○	日本労働組合総連合会(連合)					○
14	○	UAゼンセン	○				
■ NGO側							
NO	企画委員	組織名	児童労働グループ	HIV/AIDS等感染症グループ	母子保健グループ	キャンペーン検討タスクチーム	10周年記念事業タスク
1	○	(特活)アフリカ日本協議会		○		○	
2	○	(公社)アムネスティ・インターナショナル日本	○				
3	○	(特活)ACE	○				
4		(特活)エファジャパン					
5		国際連帯税フォーラム				○	
6	○	(特活)国際協力NGOセンター				○	○
7	○	(公財)国際労働財団	○				
8		(特活)シェア＝国際保健協力市民の会		○			
9	○	(特活)シャプラニール＝市民による海外協力の会					○
10		(公社)シャンティ国際ボランティア会					
11	○	(公財)ジョイセフ			○		
12		(特活)難民を助ける会		○			
13		(特活)BHNテレコム支援協議会	○				
14		(特活)フリー・ザ・チルドレン・ジャパン					
15		(公財)オイスカ					
16	参加NGO	(特活)エイズ孤児支援NGO・PLAS		○			